

「石垣市立幼稚園及び保育所の今後のあり方について」

ご意見の概要と市の考え方

| ①石垣市子ども・子育て会議 | | | |
|---------------|--|--|-------------------|
| No. | ご意見の概要 | 市の考え方 | 備考 |
| ①-1 | <p>これまで、沖縄県では、小学校入学直前の5歳児に対する幼稚園教育を沖縄型幼稚園教育として大切にしてきた経緯があり、小学校と連携することで小1プロブレムの解消を図ってきた。公立施設の定員数は今後どうなっていくのか。</p> | <p>定員数の設定は、まだ決まっておりませんが、私立認可保育園の受け入れ状況など今後の動向を勘案し決定していきます。</p> <p>石垣市の保護者の就労状況からは、保育を必要とする児童が多数であり、午前の教育だけでは、保護者のニーズに応えられない状況です。幼稚園教育要領と保育所保育指針における3歳児以上の教育・保育の内容が統一されたこともあり、これまでの5歳児のみでなく、3歳から5歳児の連続した教育・保育の実施を進めることで、石垣市全体の教育・保育の質の向上を図っていきたいと考えております。公立施設は、小学校と私立施設との結節点としての機能をもたせ、これまで同様に保幼小連携に取り組んでまいります。</p> | <p>関連 ②-1</p> |
| ①-2 | <p>近年、特別支援教育を必要とする子ども達が増えてきており、その子ども達を支援する体制、支援員の確保が大事であり、教育・保育の質の向上につながっていく。</p> | <p>年々、支援を必要とする児童や、安全面及び生活面で補助を必要とする児童も多いことから、今後とも継続して支援員の配置拡充に取り組んでいきたいと考えています。</p> | <p>関連 ②-4</p> |
| ①-3 | <p>これまで公立幼稚園は、石垣市教育委員会が研修等を行っているが、幼保</p> | <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、市町村教育委員会事務局には指導主事を置き（第18条第2項）、</p> | <p>関連 ②-4</p> |

| | | | |
|-------------------------------|--|---|-----------|
| | 連携型認定こども園の職員の研修は、どこが担っていくのか。 | 学校及び幼保連携型認定こども園における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。(第18条第3項)との規定があり、所管は、教育委員会事務局となります。 | |
| ①-4 | 公立幼稚園において、午後の預かり保育を実施して幼稚園の教育との境目が分からなくなったという声がある。教育の質を確保する上では、教材準備が大切であり、その時間や人材の確保、長時間労働にならない環境も留意する必要がある。 | 幼稚園の預かり保育は、幼稚園教育要領に規定する教育課程に係る教育時間の終了後に行う教育活動と位置づけられています。教育・保育の質の向上のため、人材の確保は重要な課題です。現在の公立施設は、25か所あり、今後のあり方において、集約・再編を図ることで、1施設あたりの人員配置の適正化を図るとともに、教育・保育の質の向上に努めてまいります。 | 関連 ②-4 |
| ②パブリックコメント・保育所へ通う保護者アンケート 92件 | | | |
| 【今後のあり方に関するご意見】 | | | |
| ②-1 | 3歳から5歳児の連続した教育・保育の確保が図られることに歓迎。本土と違い、保育所から幼稚園、小学校という流れに違和感があった。(17件) | 教育効果が高いといわれる3歳～5歳児までの連続した教育・保育の環境を整えることで、石垣市全体の教育・保育の質の確保を図ってまいります。 | 関連 ①-1 |
| ②-2 | 延長保育・土曜保育の拡充は歓迎(10件) | 就労形態に応じ、多様化する保育ニーズに対応してまいります。 | |
| ②-3 | 住んでいる小学校校区内の施設へ確実に入園できるのか。(6件) | 現在の子ども・子育て支援新制度において、就学前の児童は、保育を必要としない3歳～5歳児を1号認定、保育を必要とする3歳～5歳児を2号認定と規定されています。しかしながら、施設の定員数が決まっていることから、定員以上 | 関連 ③-6 |

| | | | |
|---------------------|---------------------|---|-----------------------------------|
| | | <p>の申込があった場合、1号認定については、抽選。2号認定については、保育の必要度の高い児童から利用調整を図り入園が決まります。現在、石垣市は、園区を設定していないことから、保護者の希望で施設を選択することが可能となっております。</p> <p>小学校との連携を図る上で、利用調整等、入所決定の運用において、地域の子どもは地域で子育てできるようルール作りを検討してまいります。</p> | |
| ②-4 | 保育・教育の質の不安（2件） | <p>石垣市子ども・子育て支援事業計画において、幼稚園教諭及び保育士の資質の向上を図ることが求められています。市としてもこれまで、校種を超えた保幼小連携講演会や合同研修会を開催しています。今後も、教育・保育の専門的知識と技術を持って携わることができるよう取り組んでまいります。</p> | <p>関連 ①-2 ①-3 ①-4</p> |
| 【移行案に関するご意見】 | | | |
| ②-5 | 幼稚園終了後の預かり先の不安（18件） | <p>保育を必要とする児童の受け皿拡大を図るため、私立認可保育園の増設を推進しており、5歳児保育の受け皿も拡大していることや、幼稚園教育要領と保育所保育指針の3歳児以上の教育・保育に関する内容が同一に改定されたことを受け、今後は、現在通っている保育施設で小学校まで連続した保育を実施することで、教育・保育の効果を高めていきたいと考えています。</p> | <p>関連 ③-8</p> |
| ②-6 | 移行が性急すぎる。十分な周知期間 | <p>平成29年7月19日の北部地域を皮切りに8月14日の石</p> | |

| | | | |
|------------|-----------------------------------|---|--------------------|
| | <p>が必要ではないか。説明会を開催してほしい。(16件)</p> | <p>垣市総合体育館メインアリーナの計6箇所で「子ども・子育てまるご意見交換会」を開催し、市の考え方の説明と、意見交換を行ってまいりました。今後は、「広報いしがき」などで周知を図ってまいります。</p> <p>移行の過渡期に直面する幼児の環境を大きく変えることなく、現在通っている園で継続して保育と教育を実施することで、小学校への接続を図っていきたいと考えております。今後は、保育士対象に教育課程編成の研修を実施し、教育に対する保護者の不安感の払拭にも努めてまいります。</p> | |
| <p>②-7</p> | <p>公立幼稚園の預かり保育を継続してほしい。(5件)</p> | <p>子ども・子育て支援新制度に伴い、待機児童の解消を図るため認可保育所の整備を推進しており、保育の受け皿が拡大してきています。</p> <p>現在、4歳児で幼稚園預かり保育を受けている幼児につきましては、継続して、平成30年度まで預かり保育を実施致します。</p> <p>わかば幼稚園、あかし幼稚園（ひらくぼ幼稚園と合同）、のそこ幼稚園、いのだ幼稚園は、近隣に保育の受け皿がない地域であるため、その受け皿が確保されるまでの間、これまで同様に預かり保育を実施します。</p> <p>平成30年度につきましては、みやなが幼稚園、しらほ幼稚園、かわはら幼稚園（みやながと合同）、なぐら幼稚園（おおかわ幼稚園と合同）につきましては、5歳児のみ新規の預かり保育希望者は、定員の範囲内で受け入れを行うことを予定し</p> | <p>関連 ③-16</p> |

| | | | |
|-----------------|---------------------------|--|----------------------------------|
| | | <p>ています。</p> <p>※預かり保育を停止する理由につきましては、②-5 の説明をご覧ください。</p> | |
| ②-8 | 大川保育所だけ保育所として残るのですか？ (2件) | 大川保育所は、登野城小学校区域であり、登野城小学校区域内のおおかわ幼稚園、やえやま幼稚園と合わせて、幼保連携型認定こども園へ移行する計画となっています。移行の時期については、整備の状況に合わせて移行する予定です。 | |
| 【入所について】 | | | |
| ②-9 | 入所決定が遅いため、早くしてほしい。(6件) | <p>平成 27 年の子ども・子育て支援新制度でこれまで約 1,600 件で推移してきた申込件数が約 2,200 件と急増し、その後も年々増加している状況です。</p> <p>保育の必要度の点数化、就労状況の確認、利用調整など申込後の審査に時間を要している状況にあります。</p> <p>入所決定通知を早く発送できるよう、提出書類の不備のないようご協力をお願いすると共に、事務の効率化を図り、早期の発送ができるよう努めてまいります。</p> | |
| ②-10 | 兄弟で同じ園へ入所できるのか。(5園) | 入所につきましては、これまでと同様に保育の必要性に応じ、点数化して点数の高い児童から順に希望園へ入所となるような利用調整を図っているところです。その際にも兄弟が可能な限り同じ施設となるよう利用調整を行っているところです。 | <p>関連</p> <p>③-8</p> <p>③-17</p> |
| 【その他】 | | | |
| ②-9 | 待機児童の解消を図るべき (12件) | 平成 27 年 4 月に 204 人に急増した待機児童の解消を図るた | |

| | | | |
|------|--|---|--------------------|
| | | め、新制度スタート以降、現在まで、5園の認可保育所、9園の小規模保育所、2か所の事業所内保育所、合計571名の保育定員枠の拡大を図っており、平成29年4月時点の待機児童数は、31名となっているところです。今年度6園の認可保育所と2園の小規模保育事業の開園を計画しており、約400名の保育定員枠拡大を予定しております。待機児童の解消に向け鋭意取り組んでいるところです。 | |
| ②-10 | 保育士の確保は大丈夫なのか。(9件) | <p>保育士の不足は、石垣市だけでなく、国全体の課題となっている状況です。</p> <p>石垣市では、島外から保育士として勤務する保育士に対し、渡航費用の補助や潜在保育士の復職準備費用の補助などで確保を図っているところです。昨年度からは、石垣市内で2カ年の課程を修了することで、幼稚園教諭免許と保育士資格の両資格が取得できる講座を開講しているところです。</p> <p>今後も引き続き、保育士の確保を図ってまいります。</p> | <p>関連 ③-13</p> |
| ②-11 | 一時預かり保育など保育が必要でない幼児の預け先など、子育て支援の充実を図ってほしい。(6件) | <p>子育て支援の充実を図る上で、一時預かり事業の要望が高い現状は把握しているところです。現在、公立保育所での一時預かり事業は、保育士の不足から事業が実施できていない状況となっています。公立施設の集約・認定こども園としての再編を行うことで、地域の子育て支援拠点として一時預かり事業などの子育て支援を充実させていきたいと考えております。</p> | <p>関連 ③-4</p> |
| ②-12 | 子ども・子育て支援新制度がわかり | これまでの制度と大きく変わっている点は、就学前児童の | |

| | | | |
|---|---|---|--|
| | にくい。(14件) | <p>保育の必要性を認定し(1号認定(保育を必要としない3~5歳児)・2号認定(保育を必要とする3~5歳児)・3号認定(保育を必要とする0~2歳児))、認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付「施設型給付」、小規模保育等の給付「地域型保育給付」の創設、また、「認定こども園」の制度を改善し、その普及を図ることなどがあります。</p> <p>認定こども園への移行にあたっては、既存の枠組みからスムーズに移行できるように、現在保育を受けている幼児の保育環境は変えず、新規募集で調整を図りつつ、平成31~32年の幼保連携型認定こども園化を目指していきたいと考えています。平成30年度の入所募集については、今後のあり方をお示しした上で、保護者の方に施設の選択をしていただきたいと思いますと考えております。</p> | |
| ③子ども・子育て まるざー意見交換会 ※意見交換会での回答を記載しております。 | | | |
| ③-1 | 伊原間保育所は、へき地保育所として保育料が安い。認定こども園となった場合の保育料は、どうなるのか。(北部地域) | 市街地と同様に、所得に応じて決定された保育料となります。これまでのへき地保育所は、お弁当持参での保育でしたが、認定こども園へ移行した場合は、市街地と同様に給食も実施することになります。 | |
| ③-2 | 通学手段について(北部地域) 幼稚園が休園になった場合、送迎はどうなるのか。(名蔵地域) | 現在の伊原間保育所に通う1~3歳児は、保護者が送迎している状況です。認定こども園へ移行した後も、その延長として、捉えていただき、送迎は、保護者の責任で行うこととなります。また、幼稚園の園区設定がないことから、個別の園だけ送迎を行うことは、予定しておりません。朝、夕の送 | |

| | | | |
|-----|---|--|--------------------|
| | | 迎につきましては、保護者のご協力をお願いいたします。 | |
| ③-3 | <p>認定こども園へ移行した後、休園となった幼稚園施設はどうなるのか。児童館や学童など子育て世代が住みやすい様な施設にしてほしい。(北部地域)</p> <p>しらほ幼稚園は、施設も新しく、広い。午後の預かりの新規がなくなるとなった場合、入園する幼児が減るのはもったいないと思う。(白保地域)</p> | <p>保育を必要としない 3 歳児～5 歳児の受け入れ可能な認定こども園が地域に設置され、休園となった場合の現在の公立幼稚園の施設利用については、要望の高い放課後のこどもの居場所や学童クラブ等の活用を図っていきたいと考えております。</p> | |
| ③-4 | <p>保育を必要としない（1号認定）場合は、午後は、預かってもらえないのか（北部地域）</p> <p>那覇市の幼稚園は、午後の預かり保育について、就労状況に関係なく受け入れていると聞いている。石垣市でもできないか。(白保地域)</p> | <p>地域子ども子育て支援事業で、保育を必要としない 1 号認定の児童が一時預かり事業を利用（別料金）することで午後の預かりも実施することが可能です。</p> | <p>関連 ②-11</p> |
| ③-5 | <p>白保地域には、新しく認可保育園が開園すると聞いた。保育の受け皿が確保されたことで、しらほ幼稚園の預かり保育の新規募集を停止することのだが、これまでしらほ幼稚園は、地域行事を一緒に行ってきた。保育園となった場合、どのようになるのか。(白保</p> | <p>教育委員会が行っている保幼小連携では、地域の私立保育所と連携し、学校行事など連携して取り組みを行っています。既存の認可保育園も地域交流を積極的に取り組んでおり、同様に積極的に交流していただきたいと考えております。</p> | |

| | | | |
|-----|--|--|-------------------|
| | 地域) | | |
| ③-6 | <p>地域のこどもが確実に地域にある施設に入園できるようにしてほしい。地域の子どもを優先してほしい。(白保地域)</p> <p>応募して入れないことはないのか。(名蔵地域)</p> | <p>現在の子ども・子育て支援新制度において、就学前の児童は、保育を必要としない3歳～5歳児を1号認定、保育を必要とする3歳～5歳児を2号認定と規定しています。しかしながら、施設の定員数が決まっていることから、定員以上の申込みがあった場合、1号認定については、抽選。2号認定については、保育の必要度の高い人から利用調整を図り入園が決定します。現在、石垣市は、園区を設定していないことで、保護者の希望で施設を選択することが可能となっております。</p> <p>小学校との連携を図る上から、今後、利用調整等、入所決定の運用等において、地域の子どもは地域で子育てできるようルール作りを検討したいと考えています。</p> | <p>関連 ②-3</p> |
| ③-7 | <p>みやなが幼稚園、しらほ幼稚園、かわはら幼稚園、なぐら幼稚園は、預かりの新規募集を停止するとあり、その後の方向がしめされていないが、31年度以降どうなるのか。(宮良地域)</p> <p>かわはら幼稚園は、預かりの新規募集を停止するとあり、その後の方向がしめされていないが、31年度以降どうなるのか。(川原地域)</p> <p>なぐら幼稚園は継続するのか。(名蔵</p> | <p>現在、幼稚園管理規則では5人未満の幼稚園を休園とする規則の実施を2年先送りしておりますが、いばるま認定こども園がH32年度開園予定ということを考慮し、先送りを更に1年延長する予定となっておりますので、かわはら幼稚園につきましてもH31年までは園児数にかかわらず開園を予定していますが、H32年度からは規則に従い園児数が5人未満である場合は休園となる予定です。</p> | |

| | | | |
|------|---|--|---------------------------|
| | 地域) | | |
| ③-8 | <p>今、上の子どもが預かり保育を受け幼稚園に通っている。下の子ども来年幼稚園に行き、預かりを受けようと思っていた。どうすればいいのか。(川原地域)</p> <p>平成30年4月から4歳であまかわ幼稚園へ入園を希望していた。就労しており、午後の預かりがないとたいへん困る。(総合体育館)</p> | <p>保育を必要とする児童の受け皿拡大を図り、私立認可保育園を増設しており、5歳児保育の受け皿も拡大していることや、幼稚園教育要領と保育所保育指針の3歳児以上の教育・保育に関する内容が同一に改定されたことを受け、今後は、現在通っている保育施設で小学校まで連続した保育を実施することで、教育・保育の効果を高めていきたいと考えています。</p> | <p>関連 ②-5 ②-7</p> |
| ③-9 | <p>今後、幼稚園の園児数が5名未満となり、休園となった場合、その翌年に人数が集まった場合は、すぐに再開できるのか。(川原地域)</p> <p>5名以上いれば、幼稚園は再開するのか(名蔵地域)</p> | <p>新年度の園児募集時に5人以上園児がいれば、再開していきたいと考えております。</p> | |
| ③-10 | <p>今いる保育所は、在園する5歳児がたいへん少ない状況で、今後、5歳児の受け入れができるのか不安。(総合体育館)</p> | <p>私立認可保育園に対して、4歳児在園児の5歳児継続保育の依頼を行っております。各保育園での受け入れに対する課題等については、個別に対応していきたいと考えています。</p> | |
| ③-11 | <p>小規模保育園から卒園する3歳児は、どこに行けばいいのか。(総合体育館)</p> | <p>石垣市の保育の課題として、小規模保育事業の連携先の確保があります。石垣市では、事業者の連携先の確保に向け、</p> | |

| | | | |
|------|--|--|--------------------|
| | | <p>積極的に支援していきたいと考えております。</p> <p>また、平成30年度については、新規の私立認可保育園が6園開園する予定で、3歳児の保育の枠は、確保されているところです。</p> <p>今後、公立幼稚園の幼保連携型認定こども園の移行等も含め、小規模保育事業の連携先の確保を進めてまいります。</p> | |
| ③-12 | <p>定員がオーバーした場合は、どうなるのか。(総合体育館)</p> | <p>保育を必要とする場合は、これまでと同様に保育の必要度と保護者の希望による利用調整を図り入所を決定します。</p> | |
| ③-13 | <p>保育士の確保はできるのか。(総合体育館)</p> <p>既存の保育園から保育士を奪われた場合は、今の状態が維持できないのではないか。(総合体育館)</p> <p>平成30年4月には、定員に見合った保育士が確保できるのか。(総合体育館)</p> | <p>保育士の不足は、石垣市だけでなく、国全体の課題となっている状況です。</p> <p>石垣市では、島外から保育士として勤務する保育士に対する、渡航費用の補助や潜在保育士の復職準備費用の補助などで確保を図っているところです。昨年度からは、石垣市内で2ヵ年の課程を修了することで、幼稚園教諭免許と保育士資格の両資格が取得できる講座も開講しているところです。</p> <p>また、保育所として認可を受けるためには、保育士の確保は必須事項であり、確保できなければ、認可を受けることができません。そのために保育士確保のための支援事業を引き続き実施してまいります。</p> | <p>関連 ②-10</p> |
| ③-14 | <p>移行案のみやなが、しらほ、なぐら、かわはらの4園は、なぜ、認定こども園を作らないのか。(総合体育館)</p> | <p>みやなが幼稚園については、宮良地域に保育施設が設置されており、しらほ幼稚園については、白保地域に今年度保育施設が設置される予定で、保育の受け皿が確保されます。今後はそれらの施設が認定こども園へ移行するためのバックア</p> | |

| | | | |
|------|---|--|---------------------------|
| | | <p>ップを行って行きたいと考えています。</p> <p>なぐら幼稚園、かわはら幼稚園につきましては、地域に居住する就学前児童の数が20名前後であり、認定こども園の定員20名以上の基準により、単独での設置が困難な状況にあります。</p> | |
| ③-15 | 5歳児の保育を優先した場合、0歳児が入れなくなるのではないかと。(総合体育館) | <p>現在、小規模保育事業の連携先の確保の課題解決を図っており、今後は、小規模保育事業の増設を図ることで、0歳～2歳の受け皿の拡大を図りたいと考えております。</p> | |
| ③-16 | 平成30年度は、認定こども園はどこもできない。認定こども園になるまで、幼稚園の預かり保育をやるべきでないか。預かり保育を継続して行う幼稚園もあれば、停止する園もあるのはなぜか。(総合体育館) | <p>子ども・子育て支援新制度に伴い、待機児童の解消を図るため認可保育所の整備を推進しており、保育の受け皿が拡大しています。</p> <p>次年度幼稚園入園を希望する児童で保育を必要とする児童は、幼稚園教育要領と保育所保育指針の3歳児以上の教育・保育に関する内容が同一になったことを受け、今後は、現在通っている保育施設で小学校まで継続して保育を受けていただきたいと考えております。</p> <p>現在、4歳児で幼稚園預かり保育を受けている児童につきましては、継続して、平成30年度まで預かり保育を実施します。</p> <p>わかば幼稚園、あかし幼稚園(ひらくぼ幼稚園と合同)、のそこ幼稚園、いのだ幼稚園は、近隣に保育の受け皿がない地域であるため、その受け皿が確保されるまでの間、預かり保育の新規募集を実施します。</p> <p>みやなが幼稚園、しらほ幼稚園、かわはら幼稚園(みやな</p> | <p>関連 ②-5 ②-7</p> |

| | | | |
|------|--|--|------|
| | | <p>がと合同)、なぐら幼稚園（おおかわ幼稚園と合同）につきましては、5歳児のみ新規の預かり保育希望者は、定員の範囲内で受け入れを行うことを予定しています。現在、4歳児で幼稚園預かり保育を受けている児童につきましては、継続して、平成30年度まで預かり保育を実施します。</p> <p>預かり保育を停止している間、施設の改修を行うことで、認定こども園への移行準備を行いたいと考えております。</p> | |
| ③-17 | 兄弟バラバラの施設に入園することがあると聞いた。(総合体育館) | <p>入所につきましては、これまでと同様に保育の必要性に応じ、点数化して点数の高い児童から順に希望園へ入所となるような利用調整を図っているところです。その際にも兄弟が可能な限り同じ施設となるよう利用調整を行っているところです。</p> | ②-10 |
| ③-18 | 平成32年に、新栄町保育所、登野城保育所、石垣保育所は、新川保育所で合同保育となるのか。(総合体育館) | <p>新規募集停止により、園児数の減少が見込まれることから、合同で保育を実施したいと考えております。現在1歳児でこれらの4保育所へ通っている乳幼児の保護者の皆様には、新規開設する私立保育所への転園も選択肢の一つとしていただきたいと考えております。</p> | |
| ③-19 | 認定こども園は、保育園児と幼稚園児の両方が入る。保育士と幼稚園教諭資格の両方を持っている必要があるのか。(名蔵地域) | <p>両方の資格を持った保育教諭となります。</p> | |
| ③-20 | 認定こども園のデメリットは？東京では、認定こども園が減少している現 | <p>認定こども園は、保護者にとって、デメリットとなるものはないと考えています。東京都では、認定を返上する園があ</p> | |

| | | | |
|------|---|---|--|
| | 状があるが。(名蔵地域) | <p>るとの報道がありますが、返上している認定こども園は私立幼稚園であり、東京と石垣では環境が違うと思われます。</p> <p>那覇市の公立幼稚園は、全園認定こども園へ移行する計画となっており、沖縄県全体で認定こども園へ移行する方向へ向かっている状況にあります。</p> | |
| ③-21 | 公立幼稚園と公立保育所の25か所を9か所に絞る計画となっているが、待機児童は減るのか。(名蔵地域) | 平成29年4月時点の待機児童数は、31名ですが、今年度は6園の開園を予定しており、約400名以上の枠が拡大する予定で、平成30年の待機児童の解消に向け職員一丸となって取り組んでいるところです。 | |
| ③-22 | 地域から幼稚園がなくなると地域が衰退する。少人数でも存続してほしい。(川原地域)(名蔵地域) | <p>認定こども園へ移行するには、20人以上の定員が必要となっています。地域で定数を満たす人数の確保があれば、認定こども園として設置が可能となります。</p> <p>地域の皆様のご理解ご協力をお願いします。</p> | |